

平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- 1 自他の命を大切に、思いやる豊かな心を持つ児童の育成を図る 2 自らの力で課題を追求し、解決できる児童の育成を図る
- 3 心身ともにたくましく、意欲的に実践する児童の育成を図る 4 豊かな体験を通して、感性を磨く児童の育成を図る

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる

- (1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する
 (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する

取組とその成果	課題と改善策
<p>○学力向上の取組 ・教員の校内研究による授業力の向上 ・放課後学習による、基礎型学習支援と活用型学習支援の実施。 ・夏休みの集中活用型学習教室の実施。 ・行事、学年・学級活動の際、「言葉で伝える」ことを全学年で意識的に取り組む。 ・家庭との連携を図り、宿題や家庭学習についてアドバイスを送った。</p> <p>○特別支援教育について ・特別支援コーディネーターが中心となってインクルーシブ教育等に対し積極的に自己研鑽を積み、校内研修会を実施するなど、職員の課題解決力を高めた。校内委員会の中で通常学級で困難な状況にある児童についても情報交換を行い、学校全体で指導にあたる体制作りを行った。また、外部専門家による見取りも実施した。</p>	<p>○一学年単学級あるいは2学級の小規模校なのでベテランや中堅から教えもらう機会が少ない。そこで研究主任を中心に、全教職員で一つの授業づくりを行うことを通し互いの考えや授業法を知り、授業技術の向上を図る。同じ分野の教材を研究し、一人一授業で公開しあうことで授業研究の充実を図る。</p> <p>○特別支援教育について 通常学級での配慮を要する児童について、一人一人の特徴を理解し、学級の枠を超え学校全体で支える体制を作る。</p>

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る

- (1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める
 (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る
 (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する

取組とその成果	課題と改善策
<p>○児童の道徳性については、生活指導等の日頃からの早期対応により、規範意識が保たれるよう注意を払っている。</p> <p>○基本的な生活習慣についても、養護教諭を中心とした、きめこまかい指導や啓発により、学校における保健指導の成果は不登校の減少など充分にあがっている。</p> <p>○キャリア教育については、本校の縦割り活動による異学年交流や、児童の主体性を重視した教育体制、伸ばしたい個性を見だし、ほめる声かけや、自尊感情の育成等、小規模校の特性を生かした日常活動により、小学校で育むべき土台づくりを視野に入れて取り組んだ。</p>	<p>○全国学力学習状況調査において、自分には良いところがあると答えた児童の割合が少なかったことから、学習面での課題解決とともに、共に学ぶ仲間としての学習集団をより良いものにし、自尊感情を高め、他者を思いやる心を育てる教育に力を注ぎたい。</p> <p>○キャリア教育については、年間指導計画の作成等進んでいるものの、中学校との連携やキャリアプランニングノートの活用など、なお一層の充実を図る必要がある。</p>

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む

- (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する
- (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る

取組とその成果	課題と改善策
<p>○食育について</p> <ul style="list-style-type: none">・栄養教諭と養護教諭を中心とした職員の連携により、食育について高い水準と意識が保たれている。 <p>○体育指導について</p> <ul style="list-style-type: none">・あまっこジャンプや泳力向上を目指した夏季休業期間中の特訓水泳、体育の授業では広い運動場で力いっぱい運動するなど、小規模校のメリットを生かし、のびのびと運動を行うことができた。	<p>○栄養教諭を中心に食育について発達段階に応じた指導をすることができた。好き嫌いのない子が多く育っている。</p> <p>○年間を通して全学年全クラスがあまっこジャンプにエントリーし、休み時間等を効果的に活用して練習することができた。放課後の運動場を開放し、帰宅後の外遊びも奨励したところ、たくさん子ども達のがのびのびと遊んでいる。遊びの中で体力の向上を図る仕組みづくりが進んできている。</p>

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る

- (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る
- (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る

取組とその成果	課題と改善策
<p>○安全教育について</p> <ul style="list-style-type: none">・集団下校の体制づくりと、一斉下校の訓練を実施し、児童の安全確保の必要性から、集団下校を緊急に行ったときも、混乱なく迅速に下校までの手順を踏むことができた。・事件など緊急事案の際はボランティアの見守り隊と協力して職員が自主的に朝の立ち当番や見回りを実施した。・月1回の安全点検で対応必要な場所については、校務員が迅速に修理等対応した。 <p>○防災について</p> <ul style="list-style-type: none">・避難訓練を実施し、火災や地震が起きた際の避難方法を確認できた。	<p>○緊急時の安全確保について、明確な基準がない場合に学校判断となるが、近隣校と連絡を取り合いながら、常識に基づいて対応する必要がある。</p>

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む

- (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る
- (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する

取組とその成果	課題と改善策
<p>○資質向上について</p> <ul style="list-style-type: none">・教職員の資質向上、組織力、教育水準の向上について、校内研究をはじめ、全教職員で共通理解を図りながら丁寧に意欲的にこなしており、成果は出ていると感ぜられる。 <p>○地域資源活用について</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の大学生や読み聞かせボランティアを活用するなど、学校のニーズに合った人材発掘に努めた。	<p>○経験の浅い教員が多く、教えてもらう機会が少ないため、学校の良き伝統の継承に課題がある。そのため、校務分掌の引継ぎを正確に行い、成果と課題を必ず次年度につなげていく組織づくりに努めた。</p> <p>○地域資源活用の取組として、運動場の側溝の泥あげやピオトーブの管理等、学校と地域が協働する機会を実行する。また、放課後学習の指導補助員も広く地域に募集して地域の人材を活用する。</p>

教育目標

- (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開
(2) 教育目標の具現化と指導の充実

取組とその成果	課題と改善策
<p>○学校教育目標に基づいた学年学級目標が為されるように、学校教育目標に立ち返ることを心がける。 職員との面談を進んで行い、職務上の困難な点や成果などについて語り合う。</p>	<p>○学校行事の目的を丁寧に確認し、それぞれの行事を通して児童の心を耕し、人としての振る舞いや生きる力、姿勢を養うよう努める。 職員会や校内研修の場などの機会を捉えて、学校教育目標に関連づけて職員に話をし、職員集団を活性化しよう心がける。</p>

研究テーマ

- (1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開
(2) 研究テーマの具現化と指導の充実

取組とその成果	課題と改善策
<p>○国語科を中心とした校内研究も、今年度はアクティブラーニングを核にし、主体的、協働的な学習活動の充実について取り組んでいる。小規模校で、十分な研究体制を整えることはできないが、団結して全員で一つの課題に取り組むなど、共通理解を図りながら研究を進めている。学力向上にも全教員で取組み、夏の集中学習や宿題の出し方についても全学年で一貫した方向性をもとに取り組むことができた。</p>	<p>○関西学院大学の佐藤真先生を講師に招き、主体的・協働的な学びについて及びそこで培いたい学力について教授を受けた。では、具体的にどのような授業を立案し実践していくのかについて研究を進めている。○学力向上については、全国学力学習状況調査結果の分析に基づいてこれまでの取り組みを精査する必要がある。</p>